

学年	高校 3 年	教科	数学	科目	数学演習	単位数	6
教科書名		Challenge Workbook 文系数学 (学研)		副教材名	サクシート数学Ⅰ+A (数研出版) サクシート数学Ⅱ+B (数研出版)		
コース・クラス		N 進文系					

I. 目標

数学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲの基本事項を復習、演習し、知識の整理を行うことで、日本大学基礎学力到達度テストの標準化点58を目指す。また、数学の基本的な原理や法則を理解させ、知識の習得と技能の習熟を図り、それらを的確に活用する能力を育てる。

II. 授業のねらい

基本事項を確認し、単元ごとに関連した演習を行うことで、各単元同士の関連性や知識を整理するとともに、総合的に問題を解く力を身につける。その時々で問題を解く時間を設定し、日本大学基礎学力到達度テストをイメージさせる。

III. 授業の進め方

1. 日本大学基礎学力到達度テストの過去問題、チャレンジワーク、演習プリントを用いて問題演習を行う。
2. 小テスト実施し、定着の度合いを図る。

IV. 学習上の留意点

1. 問題集、問題集用ノート、プリント管理用のファイルを用意して授業に臨むこと。
2. 授業時間以外でも継続的な演習（予習、復習、自己分析）を行うこと。
3. 定期試験の返却後、間違えた問題を確認し、復習を必ず行うこと。
4. 提出物の期限は必ず守ること。

V. 定期試験

問題集の内容を中心に、日本大学基礎学力到達度テストレベルの問題を出題する。

- 1学期 中間試験 : 数学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ
1学期 期末試験 : 数学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ
2学期 期末試験 : 数学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ + 数学総合問題

VI. 評価の方法

定期試験、小テスト、提出物の提出状況と内容、授業の取り組み方などを総合的に評価する。

VII. 授業計画

学期	月	単元・学習項目	評価方法	到達目標
一学期	4	2次関数(数Ⅰ) 図形と方程式(数Ⅱ) 微分法と積分法(数Ⅱ)	定期試験 小テスト 提出物	- 基本事項を確認し総合演習を行うことで、単元ごとの関連性に気付く。 - 演習プリントを通して、日本大学基礎学力到達度テストにより近い問題に慣れる。 - 複数の問題を解く際、時間配分を考えながら問題に取り組むことができる。 - 幅広い知識を習得し、個人で勉強を進めることができる。
	5	指数関数・対数関数(数Ⅱ) 三角関数(数Ⅱ) 三角比(数Ⅰ) 図形の性質(数A) ベクトル(数B)		
	6	場合の数(数A) 確率(数A) 数列(数B) 数と式 複素数と方程式(数Ⅱ)		
一学期	7	データの分析(数Ⅰ) 整数の性質(数A)	定期試験 小テスト 提出物	- 過去問題を使用して、各々正答率を上げる。過去問題で8割以上得点できる。 (大問1は9割、その他各大問平均7.5割) - 高校数学だけでなく、色々な数学の問題に取り組むことで、数学的知識や数学的思考の活用の幅を広げる。
	9	到達度テスト過去問演習		
	10	問題演習		
	11			
一学期	12		定期試験 小テスト 提出物	

※ シラバスの内容(時間や事項)については、理解度やその他の都合により変更することもあります。